

第2部 部門別協議会 (米山奨学部門)

若林紀男米山奨学会常務理事長・PDG から話があった。この40～50年で米山奨学生学友も19000人を超え、今年度、地区では50の受入希望クラブに対し29人の配置がある。今後は1人の奨学生に複数のクラブで対応するなど前からの踏襲ではなく皆様のご意見で広げて欲しいとの話であった。

DVD上映にて、米山奨学生の活動や世界の国々で活躍しているOBの紹介があり、各国で学友会ができている。まさに人づくりであるとの内容であった。その後、田中隆弥米山奨学副委員長から、米山豆辞典に則った米山奨学会の詳細な説明がなされた。

2014-16学年度米山奨学生ミハリ フィデラナ・ラママナリボさんによるスピーチでは、親の収入だけでは進学できず奨学金無しでは今の自分は無い。米山奨学金はお金の援助だけでなく人材育成である。人と人、心と心のふれあいに感謝したいとの言葉があった。ロータリアンの方々との日々、青少年活動での経験を、将来に役立たせたいと述べ、ロータリアンへの感謝を述べた。

福田治夫次年度米山奨学委員長からは、今年度テーマ「出逢えてよかった」が発表された。ロータリアン、世話クラブ、カウンセラーと奨学生の心が通じ合い、世話して良かった、世話になって良かったと満足していただきたいとの思いから定めたとのことである。詳細として、奨学生採用と多様性、奨学生の選考方法、奨学生のケアの充実、ハイライトよねやまの紹介から広報活性化と、目標寄付金額3万円の設定の話があった。

講評として、岩田宙造米山奨学部門顧問・PDGから、奨学生の熱い思いと、皆様のお力添えに応えつつ、ますますの事業発展を願いたいとの言葉があった。

五味千秋地区研修委員より、米山奨学制度は未来に続く事業である。青少年奉仕（育成）と国際奉仕というロータリーの使命を委員会の壁を取り払い具現化している米山制度は素晴らしいと述べ、各クラブへのご理解とご協力をお願いを閉会挨拶とし、協議会を締めくくった。